

# 子ども目から見た人権

## 「今考えたい、人権のこと」

【問い合わせ】

人権政策・男女共同参画課 ☎47・1286 FAX 47・1288

子どもたちも、おとなとは違う目線で人権について考えています。子どもたちの取り組みや想いを見つめることで、人が人として幸せに生きる権利を守るために大切なことを考えてみましょう。

### ◆ヒューマンフェスタに向けて取り組み

11月9日(土)、崇広中学校で「崇広中学校区地域ぐるみヒューマンフェスタ」が開催されます。ヒューマンフェスタは、崇広中学校の校区内にある小学校や保育所(園)・幼稚園、PTAや地域の皆さんなどのさまざまな人が集まって、「人権を大切にしたい、差別を許さない人と人のつながり」をつくることを目的に行われているイベントで、今年で5回目を迎えます。

崇広中学校では、これに向けて校内の人権サークルである「校内ヒューマンライツ」の生徒が中心になって、生徒実行委員会を立ち上げました。校内ヒューマンライツは、ヒューマンフェスタ

以外に、年間を通してアルミ缶やエコキャップの回収などのボランティア活動を行っていて、現在約30人の生徒が参加しています。

ヒューマンフェスタでは、参加を希望した生徒がいくつかのグループに分かれて、販売、ゲームコーナー、飲食ブースの手伝いなどを行います。今年は10人の実行委員と72人のスタッフがヒューマンフェスタに取り組んでいきます。子どもたちの自主性を大切にして取り組んでおり、毎年参加者数は増えているのだそうです。

### ◆人権を身近なものとして感じてほしい

2学期が始まった9月初旬、崇広中学校で文化発表会があり、ヒューマンフェスタを2カ月後に控えた生徒実行委員会は、その概要について報告しました。

この中で実行委員は、「昨年もスタッフとして参加して、人と人とのつながりを実感した」「人権を大切にして差別



### ◆人には人として 幸せに生きる権利がある

すべての人間は生まれたときから、人として生きていくための誰にも侵すことのできない権利(人権)を持っています。しかし、同和問題をはじめとして、女性、子ども、障がいを持った人、外国人などに対する差別は今もなお存在しています。

▼ブースの内容について  
意見を出し合うスタッフ

▼スタッフが自分たちで、ゲームの内容  
など、その取り組みについて考えます

▼生徒実行委員会。初めての  
ミサガ作りをする様子





◀▲教えてもらったとおりに、ミサンガを作る小学生と、その様子を見守る中学生



「いじめをなくしたいという気持ちがあつて参加した。」などと話しました。  
ミサンガをきっかけにして、中学生の思い

文化発表会から1カ月が過ぎた10月2日の放課後、生徒によるスタッフ会議が開かれ、フェスタで販売するミサ

### ◆ミサンガに「つながりたい」思いを込めて

を許さない気持ちを強く持たたい」「人権というとかたく感じるかもしれないが、誰でも楽しめる内容を考えて取り組んでいきたい」「興味を持ったらぜひ参加してほしい」と話しました。  
そして最後に、実行委員長で崇広中学校3年生の福田隼人さんは「ひとつひとつのことに真剣に取り組んでいきたい。」、副委員長で同じく3年生の杉山颯太さんは「一瞬たりとも気を抜かずに働きたい。」とあいさつしました。

### ◆中学生から小学生へ次へつながる人権の取り組み

小学校の児童実行委員に向けて、ミサンガの作り方や込められた思いを自分のことばで伝えるため、生徒実行委員が校区内にある4つの小学校へそれぞれ出かけました。小学生は、中学生の話をじっと聴いたあと、一生懸命ミサンガを作りました。  
また、児童実行委員になった理由について聞かれると、小学生は「昨年までのヒューマンフェスタを見ていて、ぼくも中学生と一緒にやりたいと思った。」「いじめをなくしたいという気持ちがあつて参加した。」などと話しました。

小学校の児童実行委員に向けて、ミサンガの作り方や込められた思いを自分のことばで伝えるため、生徒実行委員が校区内にある4つの小学校へそれぞれ出かけました。小学生は、中学生の話をじっと聴いたあと、一生懸命ミサンガを作りました。

また、児童実行委員になった理由について聞かれると、小学生は「昨年までのヒューマンフェスタを見ていて、ぼくも中学生と一緒にやりたいと思った。」「いじめをなくしたいという気持ちがあつて参加した。」などと話しました。

「いじめをなくしたいという気持ちがあつて参加した。」などと話しました。  
ミサンガをきっかけにして、中学生の思い



▲生徒の思いが込められたミサンガ（願いを叶えるために手首につけるアクセサリー）

が小学生へと伝えられていきました。その光景は、子どもたちが成長する中で、人権に対する思いが順に引き継がれていることを感じさせるものでした。

ヒューマンフェスタの準備をする中で子どもたちは、「みんながつながりを持って、仲良くできること」を大切にしています。  
このように人と関わり人を大切にするのが、人権を尊重することに結びつくのではないのでしょうか。  
人は、周りの人たちとのつながりの中で生きていきます。人の中で学び、人の中で育っていきます。子どもたちはヒューマンフェスタの取り組みを通して、人を大切にしたいという思いを培っています。  
誰にでも、きつとできることがあるはずですが、難しく考えず、まずは人権に関心を持つことから始めてみませんか。

### ▼ミサンガを作る児童実行委員



### ▼スタッフ会議。大勢の生徒がヒューマンフェスタに参加しています



### ▼ヒューマンフェスタの取り組みについて説明する2年生の実行委員



- ① 玉滝小学校5年生の人権学習の様子
- ② 大山田中学校ヒューマンタイムで、話をする松田慎二さんとそれを聴いている生徒たち



1



2

## 市内のさまざまな地域で、 人権学習の取り組みが行われています。

### ◆玉滝小学校の取り組み (人権学習)

玉滝小学校では、普段から人権学習を行っています。6月20日(休)、6年生は、被差別部落に育ち、識字学級を立ち上げていったNさんを、5年生は反差別人権研究所みえ、臨時調査・研究員の中村尚生さんを講師に迎え、人権について学びました。

### ◆Nさん(6年生人権学習)

Nさんは、字が読めないことや書けないことの不便さや、差別の実態について話しました。識字生の方が識字学級で文字を覚えたことで毎日の生活の中で楽しみができた話や、Nさん自身が初めて孫に手紙を出して返事をもらった経験から文字がわかることの喜びについても話しました。

6年生の子どもたちは、Nさんの話を聞いて、「理由なく差別されることはおかしい。」「字が読めること、書けることの大切さがわ

かった。」などの感想を述べました。Nさんの話にじつと聴き入り、それぞれの心になにかを刻んだ様子でした。

### ◆中村尚生さん(5年生人権学習)(写真1)

中村さんは、市内で保育士として6年間勤めたあと、人権に関わる仕事をしています。

8人の5年生たちに、「ささいなことであっても、悩みがありますか」とたずね、子どもたちの多くがあると答えました。さらに、中村さんが「その悩みを友だちに相談していませんか」と問うと、「友だちには話にくい」「家のことだから友だちには話していない」とほとんどの子が答えました。中村さんは、障がい者や外国人、同和地区の人などを例にあげて「今の日本にはマイノリティ(社会的弱者)がたくさんいる。差別されることはとてもつらいが、黙っているのは相手にそのつらさがわかってもらえない。それは、みんなの悩みと同じ。自分の気持ちを言うことはとても大事だ。」「悩みを言い合えるクラスになってほしい。」「と話しました。

### ◆大山田中学校の取り組み (ヒューマンタイム)

大山田中学校では、7月5日(金)、今年2回目となる人権学習、ヒューマンタイムを行いました。(写真2)

大山田中学校では、人権について学んでいる中学生のサークル「コバト会」がポスターを作るなど、ヒューマンタイムの実施に対して主体的になって活動しています。

今回の講師は、ピアサポーターみえ理事長の

- ③大山田中学校のくつ箱の上に置かれたパネル。廊下を歩く人の目につくその場所から、人権について考える時間は、毎週でも、毎日でも必要だと語りかけています。
- ④ 玉滝小学校 PTA による人権学習で使用された資料  
(資料提供：(公社)甲賀・湖南人権センター)



3  
4



松田慎二さん。松田さんは、生まれつき脳性まひで、手足をはじめ、全身にまひがあります。子どものころはなんとか歩けていましたが、今は車椅子を利用しています。松田さんは、「あるとき、全盲の人に出会って、かわいそうだと感じたことがありました。差別は嫌だ、同情はされたくないと思っていたのに、自分とは別の障がいがある人に同情してしまったことで、最初は同情してしまうものだということがわかりました。だから、それがだめだということではなく、最初は同情でもいいから、その人のことを知っていくと、同情の気持ちはなくなるんです。」と話しました。生徒たちは、松田さんの話を真剣に聴いた

あと、積極的に質問をするなど、充実したときをすごしました。

◆保護者による取り組み  
(玉滝小学校PTA)

玉滝小学校では、毎年、夏休み前の地区懇談会の場で、保護者が中心になり、先生や地域の方も一緒に人権学習に取り組んでいます。行政や学校からの発信ではなく、保護者が自発的に考える人権学習の場がここにあります。今年、玉滝小学校PTA 成人教育部長を務める山本剛さんが準備したのは、学校での風景が描かれた1枚のイラスト(写真4)を元

に話し合いを行う参加型の学習でした。誰が加害者で、誰が被害者で、誰が傍観者なのかを考えて、そのあとグループ内で話し合っています。

この学習の中で、「加害者は手をくだしている子だけではない」「近くでうふふと笑っている子は傍観者ではなく加害者ではないか」「いじめが悪いことだとわかっているが、言い出せずにつらい思いをしている子は、もしかすると被害者なのかもしれない」など、さまざまな意見が出されました。いろいろな考え方があり、自分と違った考え方を持っている人がいてもその意見を尊重し、否定せず、なぜそう思うのかも出し合っています。最後に、問題を解決するためにみんなができることも出し合ってもらいます。

差別やいじめの現場には「加害者」「被害者」「傍観者」が存在します。また、「私はいじめていない」「私は差別はしていない」というだけでなく、「私はいじめをなくすためにこんなことをしている」「差別をなくすためにこんなことをしている」と実行しなければ何も変わらないということをもっと多くの人に気付いて欲しいと思う、この学習をしたと山本さんは話しました。

◆玉滝小学校のPTAでは、今後、次の講演会を予定しています。

【とき】 2月22日(土)

【ところ】 玉滝小学校  
【講師】 「子どもの心のコーチング」 著者 菅原 裕子さん

【内容】 子どもの心の育て方  
子どもが自分らしく生きること応援しませんか



## ぼくたちが全力で がんばっている姿をみてほしい

今年、ヒューマンフェスタの生徒実行委員長を務める福田隼人さんと、副実行委員長を務める杉山颯太さん（ともに崇広中学校3年生）に、お話を伺いました。

2人は、小学校5年生からヒューマンフェスタに参加していて、中学校1年生からはスタッフとして取り組んできました。福田さんが実行委員長になったきっかけはこれまでの人権学習の中で仲間づくりの大切さを学んだことで、実行委員になれば今まで知らなかつた人ともつながりをつくっていけると考えたからだそうです。また、お兄さんも、実行委員

長をしていて、その姿に憧れていたということでした。

「人権を大切にすることやどういうことやと思う？」と聞かれたところ、福田さんは「かわりを持って、相手を知るこ

と。」、杉山さんは「一人ひとりを大事にすること。いじめがあつたらそれをなくして、みんなで仲良く過ごしたい。」、と話してくれました。

2人は、この実行委員会に参加したことで仲間とのつながりを築けたことが何よりうれしい、委員会での話し合いも大変だけれど今は楽しくなつてきたと話し、その内面に変化があつたことを感じさせました。

また、参加する人に向けて、スタッフやたくさんの方の知らない人とかかわることでの日を楽しみながら過ごしてほしい（福田さん）、ヒューマンフェスタに参加することでできる出会いや新しいつながりを大切にしていきたい（杉山さん）と話していました。

ヒューマンフェスタの会場で、崇広中学校と4つの小学校の児童・生徒のがんばる姿を見れば、文字だけでは伝わりきれない何かを感じる事ができるのではないのでしょうか。



# 第5回崇広中学校区 地域ぐるみヒューマンフェスタ へ行こう！

《とき》 11月9日(土)

午前10時～午後2時 (雨天決行)

《ところ》

崇広中学校 中庭・体育館・崇広ホールなど

※駐車場：崇広中学校グラウンド・上野高等学校第2グラウンド  
(駐車スペースが限られていますので、できる限り乗り合わせでこ来場ください。近隣店舗の駐車場には駐車しないでください。)

### 《内容》

#### ◆オープニングセレモニー

(午前10時～10時30分)

崇広中学校の生徒による南中ソーラン

#### ◆舞台発表

(午前10時30分～11時40分)

しろなみ保育所・新居保育所・長田保育園・ひかり保育園・曙保育園・桃青の幼稚園の園児と校区内小学校4校の児童によるステージ

#### ◆各ブースの活動

(午前11時40分～午後1時30分)

○食品・物品販売(崇広中学校 中庭)  
小学校PTA、中学校PTA、中学校生徒ヒューマンライツ、校区保護司会・校区更生保護女性の会、部落解放同盟八幡支部、など

#### サポートの会

○各種展示・体験コーナー

(崇広中学校 多目的室・崇広ホール)

中学校生徒ヒューマンライツ、校区民生児童委員・主任児童委員

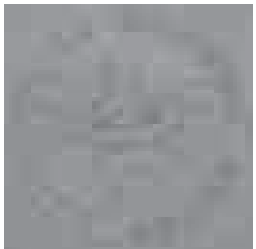
#### ○その他

(崇広中学校 体育館・崇広ホール)

校区内就学前園児による絵画の展示、校区内小中学校児童・生徒の人權ポスター展示、人權展示コーナー

#### ◆ファイナルセレモニー

(午後1時30分～2時)



# 人権イベント マップ

## 11月11日～12月10日は “差別をなくす強調月間”です

市では、「差別をなくす強調月間」にあわせて各地域で  
人権に関するさまざまなイベントを開催します。  
この機会にご参加いただき、「人権」について考えてみませんか。

### 阿山会場（阿山支所事業）

#### 阿山地区人権フェスティバル 2013

- ◆と き：11月16日(土) 午後1時30分～
- ◆と ころ：あやま文化センター さんさんホール
- ◆内 容：①人権作品表彰・作文朗読  
②トーク&コンサート  
《演 題》「明るいほうへ～金子みすゞの心と  
ともに～」  
《講 師》歌手・作曲家  
ちひろさん
- ※手話通訳・要約筆記・磁気誘導  
ループ
- ◆問い合わせ  
阿山支所住民福祉課  
☎ 43-0333 FAX 43-1679



### 伊賀会場（伊賀支所事業）

#### 差別をなくす いがまちの集い

- ◆と き：11月29日(金) 午後7時30分～
- ◆と ころ：ふるさと会館いが 大ホール
- ◆内 容：①人権作品表彰  
②講演 《演 題》  
「賤民廃止令（解放令）と日本国憲法」  
《講 師》大阪市立大学人権問題研究セ  
ンター特別研究員 上杉 聡さん
- ※手話通訳・要約筆記・磁気誘導ループ
- ◆問い合わせ 伊賀支所住民福祉課  
☎ 45-9108 FAX 45-9120



### 大山田会場（大山田支所事業）

#### おやまだ人権フェスティバル 2013

- ◆と き：12月1日(日) 午後1時30分～
- ◆と ころ：大山田農村環境改善センター  
多目的ホール
- ◆内 容：①人権作品表彰・作文朗読  
②講演  
《演 題》「両側から壁をこえる～大池  
中学校 PTA おやしバンド奮闘記～」  
《講 師》大阪市立大池中学校  
PTAおやしバンド 代表 古川 正博さん
- ※手話通訳・要約筆記・  
磁気誘導ループ
- ◆問い合わせ  
大山田支所住民福祉課  
☎ 46-0140  
FAX 46-0135



### 島ヶ原会場（島ヶ原支所事業）

#### 2013 しまがはら人権のつどい

- ◆と き：11月30日(土)  
午後1時30分～
- ◆と ころ：島ヶ原会館 ふれあいホール
- ◆内 容：①人権作品表彰・作文朗読  
②講演  
《演 題》  
「人権ってなんやろ」  
《講 師》  
落語家 森乃 福郎さん
- ※手話通訳・磁気誘導ループ
- ◆問い合わせ  
島ヶ原支所住民福祉課  
☎ 59-2109 FAX 59-3196



### 上野会場（上野支所事業）

#### 人権を考える市民の集い

- ◆と き：12月14日(土) 午後1時30分～
- ◆と ころ：伊賀市文化会館 さまざまホール
- ◆内 容：①人権作品表彰・作文朗読  
②人権トーク&コンサート  
《演 題》  
「魂拓人（コンタクト）」  
《講 師》  
森 秀一さん・森 美栄さん
- ※手話通訳・要約筆記・磁気誘導  
ループ
- ◆問い合わせ  
人権政策・男女共同参画課  
☎ 47-1286 FAX 47-1288



### 青山会場（青山支所事業）

#### 2013 人権のつどい

- ◆と き：12月7日(土) 午後1時30分～
- ◆と ころ：青山ホール
- ◆内 容：①人権作品表彰・作文朗読など  
②一人芝居  
《演 題》「君をいじめから守る」  
《講 師》  
子どもの学び館  
代表取締役 福永 宅司さん
- ※手話通訳・要約筆記・磁気誘導ループ
- ◆問い合わせ  
青山支所住民福祉課  
☎ 52-3232  
FAX 52-2174

